

## 秋のならやま観察会



守口 京子

11月14日、秋晴れの下で「秋のならやま観察会」が行われました。今回は自然林尾根道を上るコースを取り入れ、普段あまり歩く機会がない上り坂を歩こうと考えました。稜線まで上ったら、赤岳より鳥観の丘へ、そして里山林を下るコースで、ほどよい距離のコースです。参加者の皆さんにまずは元気に歩き通し、さらには秋のならやまの良さを満喫してもらおうと計画しました。

参加者12名とスタッフ(パトロールG)10名計22名が4班編成で、観察路を歩きました。ハゼ、コシアブラなどの紅葉(黄葉)、ドングリやカラスウリ、センリョウなどの木の実を観察し、シャシャンボの実を食べ、ならやまの秋を楽しみました。とりわけたくさんのかわいいキノコに、一つ一つ名札が付けられ、参加者から「こんなに種類がある、ちゃんと名前がある」ことに驚きの声があがりました。



約1時間で、全員元気に歩き通し、班ごとにふりかえりの話し合いをして、散会しました。皆さんお疲れ様でした。

### ならやまの秋はならやまの秋

参加者の言葉に「南方系の山」「紅葉が少ない」とありました。ならやまの特徴をうまく感じ取ってくださったと思います。ならやまは奈良県北部の標高100mほどの山で暖温帯という気候です。自然林であれば主に常緑樹が茂る所です。ならやま自然の森もその通りで、ソヨゴ、ヒサカキなどの常緑樹が大部分を占め、これらの植物は年中緑で紅葉しません。常緑樹



に交じってハゼ、タカノツメ、コシアブラなどの落葉樹が生えています。赤く色づいた鳥の羽のような細かい複葉だったのがハゼ、黄色で三出複葉がタカノツメ、よく似て5枚の複葉がコシアブラ。これは黄色が徐々に薄くなり白っぽくなっていき、もうすぐ半透明になります。

ならやま里山林の方は常緑樹を伐採し、コナラやクヌギを植樹するという整備をしてきたので、もうすぐオレンジ色の紅葉が見られると思います。

### ならやま観察路はどう使えばいいでしょうか？

「一人でも歩けるように標識をわかりやすく付けてほしい」というご意見をいただきました。これまで観察路の作り方、使い方については、いろいろな議論がなされてきました。

- ・丸太階段を手作りで大丈夫か？ 専門の業者に頼んだ方がよいかも。もし怪我したら責任が？
- ・看板を見て通りかかった人がふらりと迷い込んで、何かあったらどうする？

などなど悩み事、心配事は尽きませんでした。

現在の申し合わせ事項は次の通りです。

- ・山に入るのは原則2人以上で
  - ・ヘルメット着用
  - ・サイクリングロード浴いなど
- 部外者から目立つ所には看板を付けない
- ・もし山へ入る場合があれば、自己責任で。生物保護などのルールを守ってもらえるように、注意を促す看板を設置する。



ならやまは古都保存法という法律のもと、歴史的風土平城宮跡特別保存地区として指定され、都市開発の波から守られてきた貴重な場所です。観察路の問題はずっと課題です。これから話し合いを進めて、今後の方向を決めたいと考えています。

